

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分
 【発行日】平成 18 年 3 月 30 日 (2006.3.30)

【公表番号】特表 2004-515196 (P2004-515196A)
 【公表日】平成 16 年 5 月 20 日 (2004.5.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-019
 【出願番号】特願 2002-546263 (P2002-546263)
 【国際特許分類】

H 0 2 H 9/02 (2006.01)

H 0 2 J 1/00 (2006.01)

H 0 2 M 7/48 (2006.01)

【F I】

H 0 2 H 9/02 E

H 0 2 J 1/00 3 0 9 R

H 0 2 M 7/48 L

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 2 月 7 日 (2006.2.7)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】請求項 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【請求項 6】 前記駆動回路 (20) が、
 電源線 (25) に一方主電極が接続された第 2 スイッチング素子 (21) と、
 前記第 2 スイッチング素子 (21) の他方主電極に一端が接続され、前記第 1 スイッチング素子 (30) の前記制御電極に他端が接続された第 1 出力抵抗素子 (22) と、
 前記第 1 スイッチング素子 (30) の前記制御電極に一方主電極が接続され、前記第 1 スイッチング素子 (30) の他方主電極に他方主電極が接続され、前記第 2 スイッチング素子 (21) の制御電極に制御電極が接続された第 3 スイッチング素子 (24) と、を備える、請求の範囲第 4 項記載の突入電流制限回路。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0019
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0019】

この発明にかかる第 6 局面の装置では、第 4 局面の突入電流制限回路において、前記駆動回路が、電源線に一方主電極が接続された第 2 スイッチング素子と、前記第 2 スイッチング素子の他方主電極に一端が接続され、前記第 1 スイッチング素子の前記制御電極に他端が接続された第 1 出力抵抗素子と、前記第 1 スイッチング素子の前記制御電極に一方主電極が接続され、前記第 1 スイッチング素子の他方主電極に他方主電極が接続され、前記第 2 スイッチング素子の制御電極に制御電極が接続された第 3 スイッチング素子と、を備える。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0066
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 6 6 】

ゲート - エミッタ容量 C_{GE} の充電は、時刻 T_1 まで定常的に継続する。時刻 T_1 では、ゲート - コレクタ容量 C_{GC} の充電が開始され、その結果、ゲート - エミッタ間電圧 V_{GE} は一定の電圧（すなわち、ミラー電圧 {Miller voltage}） V_m にとどまる。コレクタ電流 I_{CHG} は、ゲート - エミッタ間電圧 V_{GE} の上昇にともなって増加し、時刻 T_1 でその最大値 I_{chg1} に達する。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 8 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 8 5 】

5. 実施の形態 5

図 1 2 は、実施の形態 5 の電力変換装置の構成を示す回路図である。この電力変換装置 4 0 2 は、スイッチング素子 3 0 として $MOSFET$ 4 0 が用いられている点において、実施の形態 1 の電力変換装置 4 0 1 とは特徴的に異なっている。スイッチング素子 3 0 として、電荷駆動型のスイッチング素子が一般に利用可能である。電力変換装置 4 0 1 における $IGBT$ 、および電力変換装置 4 0 2 における $MOSFET$ は、広く用いられており、様々な定格のものが入手可能であるという利点がある。